

平成23年度 大学図書館職員短期研修
京都会場（2011.10.6）東京会場（2011.11.17）

学術情報リテラシー教育入門

教育との連携を目指して



神奈川大学図書館 資料サービス課
吉場 千絵

本日の内容

1. 神奈川大学図書館のセミナーへようこそ！
2. 情報リテラシー教育再考；実践に辿りつくまで
 - ・情報リテラシーとは何か？
 - ・どう実践していくか？（教育へのアプローチ）
3. 学生に何をどう伝えるか？
 - ・プログラム組み立てのポイント
4. さいごに（今後の課題）

1. 神奈川大学図書館のセミナーへ ようこそ!

(FYS「情報探索と問題発見」のコマより)



1. 神奈川大学について（参考）キャンパス



1928年創立（平塚は1989年開設）

1. 神奈川大学について（参考）キャンパス

・横浜キャンパス

在籍者 14,990名（うち院生535名）

法学部・経済学部・外国語学部

工学部・人間科学部

約19,000名の
学生が学んでいます！

・湘南ひらつかキャンパス

在籍者 3,922名（うち院生158名）

経営学部・理学部



1. 神奈川大学について（参考） 図書館

- 横浜図書館

蔵書冊数 約100万冊

図書館職員 約50名（うち専任8名）

- 平塚図書館

蔵書冊数 約18万冊

図書室職員 15名（うち専任2名）

所蔵冊数

約**118**万冊



* 利用対象者

大学構成員・一般登録会員・相互協力大学関係者

入館者 約3,000人～6,000人/日

2. 情報リテラシー教育再考 実践に辿りつくまで



2-1.情報リテラシーとは何か？

1989年 米国図書館協会 (ALA)

情報リテラシー委員会最終報告書

情報リテラシーとは、

「情報の必要性を認識し、情報入手・
評価し、効果的に利用する能力」

2-1.情報リテラシーとは何か？

2000年 米国大学・研究図書館協会（ACRL）
「高等教育のための情報リテラシー能力基準」

情報リテラシーと教育学

情報リテラシー能力を獲得するためには、一連の能力が
カリキュラムに無関係ではなく、カリキュラムの内容、
構成、順序のなかに織り込まれていることを理解する必要
がある。

日本語訳；野末俊比古（2000年1月 ACRL/ALA理事会承認）

2-1.情報リテラシーとは何か？

情報リテラシー能力を習得することにより可能になること

- どのような時に、どのような性質の情報が自分にとって必要であるかを知ることができる
- どのように情報を探すべきかを的確に判断し、効率的に情報入手することができる
- 情報を批判的に評価・取捨選択し、倫理に反しないよう適切に利用することができる
- 既存の知識の独自性を尊重しつつ、新たな洞察を生み出すことができる

田村俊作編著.情報サービス論.新訂版,東京書籍, 2010

2-1.情報リテラシーとは何か？

2010年 科学技術・学術審議会

「大学図書館の整備について（審議のまとめ）

-変革する大学にあって求められる大学図書館像-

情報リテラシー教育は、大学図書館が主体となって取り組むことが求められている。例えば、新入生に対する初年次教育の一環として必修の授業として開講することが考えられる。カリキュラムの開発や実施を教員と協同して行うだけでなく、図書館職員が教員を兼務するなどして、直接授業を担当することも視野に入れるべきである。

2-1.情報リテラシーとは何か？

「図書館単独で授業を行っていても、機会や時間は限られており、**学生の実際の大学での学びや課題といった文脈から切り離されていると、望ましい効果は期待できない。**

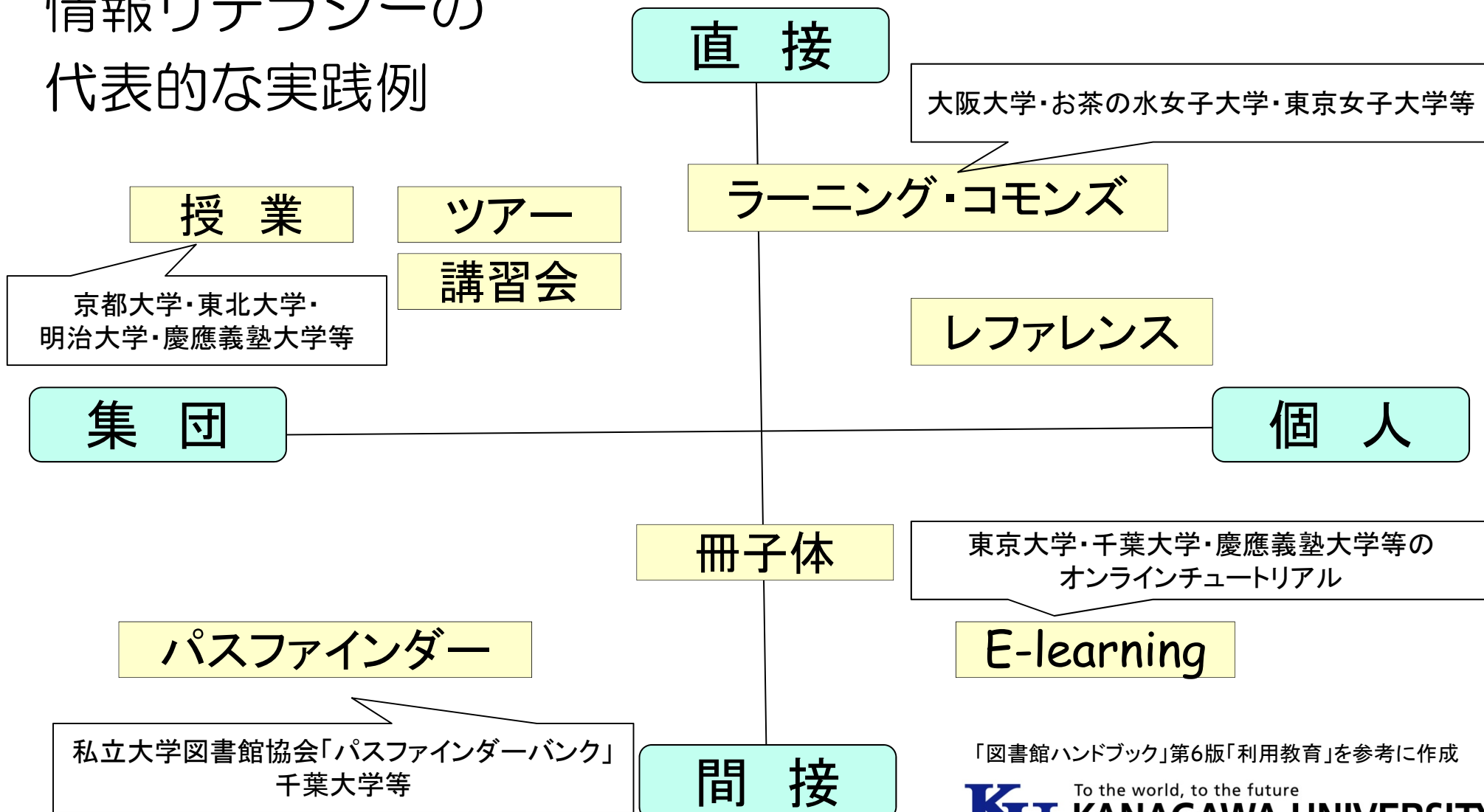
教員とコミュニケーションをじゅうぶんにとったうえで、協働して授業を行うことが求められる。情報リテラシー教育における大学図書館の位置や図書館員の役割をさらに明確にし、図書館員と教員がお互いの役割を深く理解することで、**認識のギャップを埋めたい**」

上岡真紀子, 市古みどり.図書館員による情報リテラシー教育；現在・過去・未来.
現代の図書館.2007,45（4）,p226-233.

田村俊作編著.情報サービス論.新訂版,東京書籍, 2010

2-2. どう実践していくか？

情報リテラシーの 代表的な実践例



「図書館ハンドブック」第6版「利用教育」を参考に作成

2-2. どう実践していくか？

神奈川大学の場合 →

ファーストイヤーセミナー (FYS)

FYSとは…

- 全入学時代に育ってきた、多様な新入生に対応するための初年時教育科目として、2006年度より開始
 - 半期の必修科目
 - 全新入生を1クラス25名程度に分け、教員全員が学部横断的に教育指導にあたろうという基本精神のもとスタート
- 図書館でも1コマ担当あり (ただし合同授業)

2-2. どう実践していくか？

FD委員会（FYS教育小委員会）へのアプローチ
これにより

- ・図書館側の考えを伝え、授業内容・目標に反映できた。
- ・FYS学生用テキスト、教員用マニュアルの執筆ができた
- ・「情報リテラシーテキスト」に内容を反映できた
- ・学生、教員へのアンケートができた（結果はFD委員会に提出）
- ・個別セミナーの実施により合同授業のフォローができた
- ・FYSカリキュラムに合わせた集合セミナーの開催ができ、参加者も増えた
- ・ゼミ単位でのセミナー希望者も増えた

3. 学生に何をどう伝えるか？ プログラム組み立てのポイント



3. 学生に何をどう伝えるか？

プログラム組み立てのポイント

ガイダンスにおいて何をポイントにするか？

コンセプトはどうかを明確にする。

- ・ 図書館として、誰をどうしたいのか？
- ・ 何を伝えたいのか？
- ・ それは学生のニーズにあっているのか？

聴き手である学生の分析から。

図書館の思いの押し売りガイダンスにならないように！

3. 学生に何をどう伝えるか？

- ・ 「自分は検索はできている」と勘違いしている。キーワードが与えられれば、検索するスピードは異様に早い。デジタルネイティブ。
- ・ 文章を読解する能力が低い。文章からキーワードが見抜けない。
- ・ キーワードの発想力が乏しい
- ・ 検索等その場では難なくできても、実際にその技をどこで使えばよいのかわかっていない。で、結局ネット。しかも携帯。
- ・ ガイダンスは必修なのでしょうがなく出ている（つまり図書館として実は聞かせるのは至難の業）
- ・ 常に眠い。人数が多ければ授業中寝てもわからないと思っている。
- ・ 図書館に行かなくてもネットで十分だと思っている。
- ・ OPACはほとんど使ったことがない。図書館HPも見たことがない。
- ・ データベースという言葉は知らない。
- ・ 高校までに図書館経験は非常に薄い（並び方？請求記号って何？）
- ・ 図書館には本しかないと思っている。
- ・ 図書館に興味はないが、レポートには関心がある。

3. 学生に何をどう伝えるか？

「ひとつひとつの操作はできる、わかっているのです。AND検索、OR検索は知っている。OPACの操作もわかっている。データベースもわかっている。図書館にいけばレファレンスサービスがあるのもわかっている。エクセルも使える、ワードも使える、パワーポイントも使える。でもどういうときに、どういう順番で、どれを使えばいいかということが、なかなか上手にできていないように思います」

野末俊比古.私立大学図書館協会会報 (134), 138-155, 2010-09

3. 学生に何をどう伝えるか？

「一連の情報リテラシーを体系的に教授するためには、レポート作成法の教授とレポート作成の実践を通じた教育が有効である。なぜならば、レポート作成の過程において上述の（略）情報リテラシーの活用は必須であり、レポート作成の実践を通じてのみ情報リテラシーの効果的習得が可能となるからである。」

筑波大学.今後の「大学像」のあり方に関する調査研究（図書館）報告書, 2007
文部科学省「先導的大学改革推進委託事業」

3. 学生に何をどう伝えるか？

プログラム組み立てのポイント

ガイダンスにおいて何をポイントにするか？

コンセプトはどうするかを明確にする。

- ・ 図書館として、誰をどうしたいのか？
- ・ 何を伝えたいのか？
- ・ それは学生のニーズにあっているのか？

聴き手である学生の分析から。

図書館の思いの押し売りガイダンスにならないように！

3. 学生に何をどう伝えるか？

■2011年版のコンセプト

学生が必ず取り組まなくてはならないレポートの書き方に沿って、図書館や情報の検索方法の話をする（図書館には興味がないが、レポートの書き方には関心がある）。

■学生に理解してもらいたいこと

- ①レポート作成にあたって、どのように情報や図書館を利用すればよいのか？どのようなときに何を検索すればよいのか？（インターネットを使うことが、「検索」ではない！！）
- ②図書館のサービスや、各種ルールを知ってもらう。

3. 学生に何をどう伝えるか？

■2011年度FYSのコンテンツ

1. レポートとは何か？
2. レポートのテーマを決める・理解する
3. 関連資料を入手する
資料の種類・OPAC・新聞・参考文献
4. 図書館利用案内
5. さいごに

3. 学生に何をどう伝えるか？

神奈川大学図書館で行っている各種ガイダンス

- ① 図書館ツアー（セルフツアーもあり）
- ② 情報探索術 入門 OPAC検索
- ③ 情報探索術 初級 図書・新聞・雑誌検索・参考文献
- ④ 情報探索術 中級 各種専門データベース検索
レポートテーマ・卒論テーマ探索術
- ⑤ 映像セミナー レポートの書き方・プレゼンテーションの方法
- ⑥ FYS（First Year Seminar・1年次必修科目）
- ⑦ 個人向けガイダンス「文献の探し方と入手方法」

4.さいごに 今後の課題

- 成果調査の実施
- ハード面も含めた教育との連携を深める

「これからの学習支援空間は、大学図書館内に閉じこもったものではなく、大学のミッションや事業計画と密接に結びついたものにすべきであろう。単なる大学図書館内のムーブメントや、まして、大学図書館の生き残り策などではなく、長期的視野をもった学習空間の構築が必要である」

呑海沙織, 溝上智恵子. 大学図書館における学習支援空間の変化；北米の学習図書館からラーニング・コモンズへ. 図書館界. 2011, 63(1), p.2-15.

ご静聴ありがとうございました

